

# 音楽科部会

**研究主題** 豊かな感性をもち、自ら音楽活動を楽しもうとする生徒の育成

## 1 主題について

知覚・感受したことを基に思考・判断し音楽表現や鑑賞につなげていく一連の流れを大切にし、生徒の音楽の力を伸ばすための授業づくりについて研究をしていくこととした。

## 2 今年度の取組

月 日	実践内容	
4月14日	第1回総合研究会	研究主題設定・年間計画作成
8月30日	授業等交流	授業研究会（第二中学校・指定訪問）
10月28日	第2回総合研究会	テーマ研究（第二中学校）

## 3 研究内容

### (1) 授業研究

- ・期 日 平成23年8月30日（火） ・会 場 第二中学校
- ・題材名 3年 混声合唱の美しさを味わって歌おう ・授業者 加藤 達美

#### ① 授業者から

- ・学校祭関連の学級合唱・全校合唱を、音楽科の年間指導計画の中に位置付け、学習指導要領に基づいてきちんと指導しようと考えた。題材の指導計画については、教育課程研究協議会で学んだことを生かして納得のいくものができたと思う。学習指導要領のA表現（1）歌唱のあとに関わる内容であり、題材を貫く共通事項として「テクスチュア」「強弱」を取り上げた。
- ・生徒は1年時から音楽の授業や行事での合唱等に非常に意欲的である。本時の教材「親知らず子知らず」は合唱コンクールの学級合唱曲として選曲したものだが、3年目にしてやっと最高学年にふさわしい選曲ができた。学級担任の協力も大きかった。
- ・今回は「知覚・感受」させる手立ての一つとして電子黒板を活用したが、全員で譜面上で確認したい場合などに有効であると実感した。
- ・前時は、教材の冒頭部分について「音の重なり方」「強弱」を知覚・感受することに主眼を置いた。本時は、その経験を基にして生徒たちが主体的に活動していたと思う。パートでの話し合いや練習では、期待以上の生徒の気付きや感じ取りがあった。
- ・授業展開の課題としては時間配分、指導上の課題としては知覚・感受したことを表現の工夫に結び付けるための手立てや方法などである。

#### ② 協議

- ・特に行事に関わる合唱を指導する場合、教師側から「もっとこういうふうにしなさい」と一方的に教えがちだが、生徒たちに表現の工夫を考えさせること、それを積み重ねることが大事だと感じた。
- ・生徒に考えさせる場を設けても、授業時間内に消化しきれなかったり、自分の思いや考えを表現できないことがよくあるので、今日の生徒はすばらしいと思った。
- ・パート内でねらいに沿った話し合いが行われていたのがよかった。楽譜を読む力が育っていると感じた。
- ・本時の学習活動の3番のところは、とても丁寧すぎたと思う。1単位時間50分で週1時間なので、そこで時間がとられすぎてはいけないのではないかと感じた。
- ・「表現の工夫」とは、譜面の具現化だけでよいものか。曲想を捉え、歌詞の内容、情景などが一体となったときに表現の工夫ができていると言えると思う。生徒がシートに書いたコメントが入り口になるのではないかと感じた。
- ・生徒の語彙が豊富だった。「ことばの辞典」が有効だったからか。電子黒板の活用もとても効果がある。自分も使ってみようと思った。



【電子黒板を使って音の重なり方を確認】

#### ③ 指導助言（小林秀雄指導主事）

- ・生徒が非常に意欲的であった。ただ意欲的に歌うということではなく、〔共通事項〕として絞った「強弱」「パートの役割」を意識して工夫する、ということに意欲的であった。
- ・教材・教具の準備がよかった。電子黒板やCDが効果的に使われていたこと、ことばのり

ストの配付など。ただし、パート別CDの範唱があまりよくなかったのが残念。

- ・題材の指導計画は、少なくとも歌唱のスタンダードな流れである。合唱コンクールに向けた取組でも、音楽科として指導すべき「題材を貫く〔共通事項〕」を設定し、参考にしてみてもよい。
- ・黒板に貼る歌詞は、漢字を用いた縦書きがよいと思う。歌詞の内容やイメージが全く違ってくる。
- ・本教材はストーリー性のある曲なので、歌詞と要素とのかかわりをもう少し追求してもよい。学習シートの1を生かすなど、あとは授業の進め方の問題だと思う。
- ・強弱記号の説明が長すぎた。特徴的なところだけ取り上げ、あとはパートに任せてもよかった。
- ・時間配分の点から考えると、取り上げる小節をもっと少なくするという手もある。
- ・本題材では「強弱」「テクスチュア」を取り上げたが、この曲は「速度」も重要である。



【テノールのパート練習風景】

## (2) テーマ研究

・期 日 平成23年10月28日(金) ・会 場 第二中学校

### ① 協議1「合唱指導について」

- ・特に行事に関連した合唱指導では、全教職員の指導体制や学級担任との連携も重要である。
- ・ピアノ伴奏のできる生徒が激減していることは、小規模校はもちろん中～大規模校でも切実な問題であり、合唱曲の選曲にも大きく関わることである。
- ・音楽科の教員はほとんどが各校1人体制なので、今回このような情報交換の場があって本当によかった。新しい合唱曲やCDなど、今後も必要に応じて情報提供し合いたい。

### ② 協議2「創作について」

- ・創作はやはり難しさを感じるが、少しずつ実践の積み重ねをしている。
- ・リコーダー、ピアニカなどの楽器を用いることが考えられるが、その演奏技能が課題である。
- ・グループでの創作になると、どうしても得意な生徒に頼りがちになってしまう。

### ③ 指導助言(小林秀雄 指導主事)

- ・合唱の選曲リストを突き詰めていくと、やはり〔共通事項〕に行き着くのではないか。
- ・合唱のパート練習用CDをシーケンサーで打ち込んで自作した例もある。いろいろ調節が可能。
- ・コンピュータを使った創作は、修正がきく・保存できる・繰り返し演奏できるなどのメリットもあるが、手順が決まっているため試行錯誤しにくいというデメリットもある。
- ・小学校高学年では鍵盤ハーモニカを使用している。中学校では箏が効果的だと考えている。
- ・小学校では「音楽づくり」の授業がかなり進んでいる。このような学習経験のある子どもたちがやがて中学校にやってくることを意識していきたい。
- ・合唱コンクールに向けた指導も、音楽科の授業として成立するようなものに改善を。がむしゃらに声を出すのが意欲的なのではなく、一生懸命やっているその中身が学習指導要領に沿うものであれば「意欲的」と言えるのではないか。
- ・音楽科の学習は、学習指導要領にある歌唱アイウ、器楽アイウ、創作アイ、鑑賞アイウである。これらを全てきちんと指導する。表現と鑑賞を結び付けた題材は、〔共通事項〕で結び付ける。
- ・全ての授業において、知覚・感受→思考・判断→音楽表現や鑑賞という一連の流れを大事にして指導しなければならない。
- ・平成24年になると、新しい評価項目に切り替わる。今のうちにこれを勉強しておく必要がある。今年度末に各校の教務主任や研究主任から何か動きがあるはず。今回、国立教育政策研究所の評価規準のいいところは、「設定例」に当てはめるとすぐに評価規準がつけられること。活用してほしい。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・創作への取組をはじめとし、新学習指導要領に沿った授業改善が進んでいる。
- ・普段できないような情報交換をしたり、新しい教材・教具についても学ぶことができた。

### (2) 課題

- ・学習指導要領を熟知し、指導内容をしっかり指導する授業、一連の学習過程による授業の研究。
- ・創作についての更なる研究と実践の積み重ね。